

四半期報告書

(第58期第3四半期)

株式会社 **ミスミグループ**本社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

| | |
|--|----|
| 【表紙】 | 1 |
| 第一部 【企業情報】 | 2 |
| 第1 【企業の概況】 | 2 |
| 1 【主要な経営指標等の推移】 | 2 |
| 2 【事業の内容】 | 2 |
| 第2 【事業の状況】 | 3 |
| 1 【事業等のリスク】 | 3 |
| 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 | 3 |
| 3 【経営上の重要な契約等】 | 4 |
| 第3 【提出会社の状況】 | 5 |
| 1 【株式等の状況】 | 5 |
| 2 【役員の状況】 | 7 |
| 第4 【経理の状況】 | 8 |
| 1 【四半期連結財務諸表】 | 9 |
| 2 【その他】 | 19 |
| 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 | 20 |

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月5日

【四半期会計期間】 第58期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 株式会社ミスミグループ本社

【英訳名】 MISUMI Group Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大野 龍 隆

【本店の所在の場所】 東京都文京区後楽二丁目5番1号

【電話番号】 03-5805-7050(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 CFO 男 澤 一 郎

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区後楽二丁目5番1号

【電話番号】 03-5805-7401

【事務連絡者氏名】 常務取締役 CFO 男 澤 一 郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第57期 第3四半期 連結累計期間 | 第58期 第3四半期 連結累計期間 | 第57期 |
|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 2018年4月1日 至 2018年12月31日 | 自 2019年4月1日 至 2019年12月31日 | 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 249,719 | 235,786 | 331,936 |
| 経常利益 (百万円) | 22,660 | 17,648 | 31,815 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円) | 16,216 | 12,919 | 24,034 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 15,493 | 10,779 | 23,988 |
| 純資産額 (百万円) | 196,734 | 211,418 | 205,424 |
| 総資産額 (百万円) | 241,714 | 259,444 | 252,393 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | 57.23 | 45.54 | 84.80 |
| 潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | 57.02 | 45.40 | 84.48 |
| 自己資本比率 (%) | 80.6 | 80.6 | 80.6 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円) | 6,878 | 20,160 | 13,048 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円) | △13,194 | △6,735 | △16,955 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円) | △5,999 | △5,524 | △5,991 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円) | 38,959 | 48,884 | 41,753 |

| 回次 | 第57期 第3四半期 連結会計期間 | 第58期 第3四半期 連結会計期間 |
|-----------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間 | 自 2018年10月1日 至 2018年12月31日 | 自 2019年10月1日 至 2019年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益 (円) | 16.38 | 15.54 |

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

MISUMI TREASURY SINGAPORE PTE. LTD.、米思米(上海)投資有限公司、駿河精機(佛山)有限公司を新たに設立したため、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

この結果、2019年12月31日現在では、当社グループは、株式会社ミスミグループ本社（当社）、連結子会社48社、非連結子会社1社及び関連会社2社で構成されております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、総じて低調に推移しました。中国などでは米中貿易摩擦の長期化に伴い製造業の設備投資への抑制が続いていることに加え、主要国における自動車関連の需要低迷なども継続しました。また、日本においては輸出環境の弱含みなどにより製造業全般は減速が継続し、生産用機械、自動車関連分野に影響が見られました。

こうした環境の中、当社はメーカー事業と流通事業を併せ持つユニークな業態を活かしながら、これを支える事業基盤をグローバルで進化させ、顧客の非効率を解消することで世界の製造業に貢献しています。当第3四半期においては、世界で進化する「デジタルものづくり」に向けた事業モデルの革新において、テーマを厳選しつつ取り組みました。基幹システムのクラウド化などによってIT基盤を強化し、最適調達を目的とした現地生産・現地調達を推進し、国内外で物流拠点を拡張するなど、グローバル確実短納期体制の強化に努めました。しかしながら売上高、利益ともに製造業の設備投資需要低迷が継続したことにより、前年比減少となりました。

この結果、連結売上高は2,357億8千6百万円（前年同期比5.6%減）となりました。利益面につきましては、売上減による収益の減少、および持続成長に不可欠な先行投資を厳選しつつも継続したことなどにより、営業利益は181億9百万円（前年同期比20.2%減）、経常利益は176億4千8百万円（前年同期比22.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は129億1千9百万円（前年同期比20.3%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①FA事業

FA事業は、米州を除く主要地域、とりわけ日本の設備投資需要低迷が続いたことにより、売上高は745億6千万円（前年同期比9.4%減）、営業利益については、販売減少の影響、および事業基盤強化に向けた先行投資を厳選して継続したことにより、95億3千3百万円（前年同期比30.9%減）となりました。

②金型部品事業

金型部品事業は、東南アジアにおける販売活動が概ね堅調だったものの、中国、欧州などの地域での自動車関連の市況低迷により、売上高は554億8百万円（前年同期比4.1%減）、営業利益については、販売減少の影響などにより、40億3千9百万円（前年同期比14.2%減）となりました。

③VONA事業

VONA事業は、ミスミブランド以外の他社製品も含めた生産設備関連部品、製造副資材、MRO（消耗品）等を販売するミスミグループの流通事業です。事業成長を支える品揃え拡大は今期も継続し、当第3四半期時点でグローバルでの取扱品目数は3,040万点に達しました。こうした取り組みや積極的な販売拡大施策により、米州や東南アジアでは売上が伸長したものの中国と日本の減速を補えず、売上高は1,058億1千8百万円（前年同期比3.5%減）、営業利益については、収益改善施策の効果が現れたものの売上の減少や確実短納期強化に向けた投資を厳選して継続したことにより、45億3千7百万円（前年同期比0.9%減）となりました。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ70億5千万円増加し、2,594億4千4百万円となりました。この主な要因は、受取手形及び売掛金の減少などにより流動資産が32億7百万円減少した一方、有形固定資産が86億6千7百万円増加したことによるものです。なお、第1四半期連結会計期間より一部の在外連結子会社において、IFRS第16号「リース」を適用しており、有形固定資産のその他（純額）が50億2千4百万円増加しております。

(負債)

総負債は前連結会計年度末に比べ10億5千6百万円増加し、480億2千5百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金や未払金の減少などにより流動負債が34億1千9百万円減少した一方、固定負債が44億7千6百万円増加したことによるものです。なお、第1四半期連結会計期間より一部の在外連結子会社において、IFRS第16号「リース」を適用しており、流動負債のその他が15億7千2百万円、固定負債のその他が35億8百万円増加しております。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べ59億9千3百万円増加し、2,114億1千8百万円となりました。この主な要因は、為替換算調整勘定等のその他の包括利益累計額が22億1千1百万円減少した一方、利益剰余金が76億8千万円増加したことなどにより株主資本が77億6千1百万円増加したことであります。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末と同水準の80.6%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ71億3千万円増加し、488億8千4百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、201億6千万円の純収入となりました（前年同期は68億7千8百万円の純収入）。この主な内訳は、税金等調整前四半期純利益が176億4千8百万円、減価償却費が95億3千9百万円、売上債権の減少額が38億8千7百万円、たな卸資産の増加額が45億2千5百万円、仕入債務の減少額が14億3千4百万円、未払金の減少額が9億3千4百万円、法人税等の支払額が63億5千7百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、67億3千5百万円の純支出となりました（前年同期は131億9千4百万円の純支出）。この主な内訳は、固定資産の取得による支出が152億5千8百万円、定期預金の預入による支出が10億5千8百万円、定期預金の払戻による収入が97億9千5百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、55億2千4百万円の純支出となりました（前年同期は59億9千9百万円の純支出）。この主な内訳は、配当金の支払額が52億4千7百万円であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は12億2千4百万円であります。

(5) 生産、受注及び販売の状況

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売の実績に著しい変動はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|---------------|
| 普通株式 | 1,020,000,000 |
| 計 | 1,020,000,000 |

② 【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日) | 提出日現在発行数(株) (2020年2月5日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|---|----------------------------|------------------------------------|--------|
| 普通株式 | 283,818,897 | 283,869,197 | 東京証券取引所 (市場第一部) | (注)1、3 |
| 計 | 283,818,897 | 283,869,197 | — | — |

- (注) 1 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
- 2 提出日現在の発行数には、2020年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。
- 3 単元株式数は100株であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

当第3四半期会計期間において発行した新株予約権は、次のとおりであります。

当社及び当社子会社の従業員に対する中期インセンティブ報酬としての株式報酬型ストックオプション

| | |
|---|---------------------------|
| 発行回次 | 第37回新株予約権 |
| 決議年月日 | 2019年10月17日 |
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社及び当社子会社の従業員108名 |
| 新株予約権の数(個)※ | 1,751 (注1) |
| 新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)※ | 普通株式 175,100 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円)※ | 1 (注2) |
| 新株予約権の行使期間※ | 2022年11月1日～2029年10月31日 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)※ | 発行価格 2,645 資本組入額 1,323 |
| 新株予約権の行使の条件※ | (注3) |
| 新株予約権の譲渡に関する事項※ | 新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要する |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項※ | (注4) |

※ 新株予約権証券の発行時(2019年11月1日)における内容を記載しております。

- (注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株である。
- 2 新株予約権の行使に際して出資される財産の目的は金銭とし、新株予約権の行使に際して出資される新株予約権1個当たりの金額は、1株当たりの価額(以下「行使価額」という。)に付与株式数を乗じた金額とする。株式1株当たりの行使価額は1円とする。
なお、新株予約権割当日後に、当社が株式の分割または併合を行う場合、その行使価額を調整することが適切であると認める場合は、当社は必要と認める処理を行うものとする。
- 3 ①新株予約権者は、権利行使時においても、当社または当社の子会社若しくは関連会社の役員または従業員の地位にあることを要する。ただし、権利行使時において当該地位に存しない場合といえども、新株予約権者が上記の行使期間の開始後に退任または退職した場合には、退任日または退職日の翌日の2年後の応当日または行使期間の満了日のいずれか早い日までの期間に限り、権利を行使することができる。
- ②新株予約権者は、次のいずれかに該当した場合、権利を行使することができない。
- (i) 上記に定める新株予約権の行使期間の到来前に当社、または当社の子会社若しくは関連会社の役員、または従業員の地位を喪失した場合。
- (ii) 当社、または当社の子会社若しくは関連会社の役員・従業員を解任・解雇された場合。
- (iii) 新株予約権者が、新株予約権を放棄することを書面により当社に申請した場合。
- (iv) 新株予約権者が、破産手続開始を自ら申請した場合、または破産手続開始決定を受けた場合。
- 4 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日において残存する新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、組織再編行為時に定める契約書または計画書等に定めた場合には、それぞれの組織再編行為時に定める契約書または計画書等に記載された条件に基づき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権をそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|--------------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 2019年10月1日～ 2019年12月31日 (注) | 27 | 283,818 | 18 | 13,064 | 18 | 19,762 |

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------------|-----------|----|
| 無議決権株式 | — | — | — |
| 議決権制限株式(自己株式等) | — | — | — |
| 議決権制限株式(その他) | — | — | — |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 129,600 | — | — |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 283,628,900 | 2,836,289 | — |
| 単元未満株式 | 普通株式 60,397 | — | — |
| 発行済株式総数 | 283,818,897 | — | — |
| 総株主の議決権 | — | 2,836,289 | — |

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ7,200株(議決権72個)及び84株含まれております。

2 単元未満株式には当社所有の自己株式16株が含まれております。

② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%) |
|---------------------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|--------------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社ミスミグループ本社 | 東京都文京区後楽 二丁目5番1号 | 129,600 | — | 129,600 | 0.05 |
| 計 | — | 129,600 | — | 129,600 | 0.05 |

2 【役員】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2019年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 50,684 | 49,085 |
| 受取手形及び売掛金 | 67,252 | 62,516 |
| 商品及び製品 | 42,795 | 46,376 |
| 仕掛品 | 2,372 | 2,753 |
| 原材料及び貯蔵品 | 6,564 | 6,550 |
| その他 | 6,155 | 5,323 |
| 貸倒引当金 | △205 | △191 |
| 流動資産合計 | 175,620 | 172,413 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 10,560 | 11,408 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 14,018 | 15,706 |
| 土地 | 3,758 | 4,258 |
| その他（純額） | 9,298 | 14,931 |
| 有形固定資産合計 | 37,637 | 46,304 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 22,186 | 23,650 |
| その他 | 7,475 | 6,837 |
| 無形固定資産合計 | 29,661 | 30,488 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 6 | 6 |
| その他 | 9,654 | 10,424 |
| 貸倒引当金 | △186 | △193 |
| 投資その他の資産合計 | 9,474 | 10,237 |
| 固定資産合計 | 76,772 | 87,031 |
| 資産合計 | 252,393 | 259,444 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2019年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 18,218 | 15,919 |
| 未払金 | 10,150 | 7,861 |
| 未払法人税等 | 2,774 | 2,163 |
| 賞与引当金 | 2,549 | 1,865 |
| 役員賞与引当金 | 35 | 26 |
| その他 | 5,791 | 8,263 |
| 流動負債合計 | 39,520 | 36,101 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付に係る負債 | 5,425 | 6,053 |
| その他 | 2,022 | 5,870 |
| 固定負債合計 | 7,448 | 11,924 |
| 負債合計 | 46,968 | 48,025 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 13,023 | 13,064 |
| 資本剰余金 | 23,378 | 23,419 |
| 利益剰余金 | 166,060 | 173,740 |
| 自己株式 | △78 | △78 |
| 株主資本合計 | 202,384 | 210,146 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | 1,211 | △1,005 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △75 | △69 |
| その他の包括利益累計額合計 | 1,135 | △1,075 |
| 新株予約権 | 1,331 | 1,763 |
| 非支配株主持分 | 572 | 583 |
| 純資産合計 | 205,424 | 211,418 |
| 負債純資産合計 | 252,393 | 259,444 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 249,719 | 235,786 |
| 売上原価 | 144,009 | 135,273 |
| 売上総利益 | 105,709 | 100,513 |
| 販売費及び一般管理費 | 83,015 | 82,404 |
| 営業利益 | 22,694 | 18,109 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 181 | 202 |
| 保険返戻金 | 144 | — |
| 雑収入 | 290 | 309 |
| 営業外収益合計 | 616 | 511 |
| 営業外費用 | | |
| 売上割引 | 67 | 55 |
| 為替差損 | 460 | 684 |
| 雑損失 | 122 | 233 |
| 営業外費用合計 | 650 | 972 |
| 経常利益 | 22,660 | 17,648 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 22,660 | 17,648 |
| 法人税等 | 6,391 | 4,687 |
| 四半期純利益 | 16,269 | 12,960 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 52 | 41 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 16,216 | 12,919 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 四半期純利益 | 16,269 | 12,960 |
| その他の包括利益 | | |
| 為替換算調整勘定 | △777 | △2,177 |
| 退職給付に係る調整額 | 11 | 5 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | △10 | △9 |
| その他の包括利益合計 | △775 | △2,180 |
| 四半期包括利益 | 15,493 | 10,779 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 15,488 | 10,707 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 4 | 72 |

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 22,660 | 17,648 |
| 減価償却費 | 6,452 | 9,539 |
| 退職給付に係る負債の増減額 (△は減少) | 477 | 635 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | △1,554 | △659 |
| 役員賞与引当金の増減額 (△は減少) | △189 | △9 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △64 | △2 |
| 受取利息及び受取配当金 | △187 | △207 |
| 支払利息 | 1 | 88 |
| 株式報酬費用 | 463 | 507 |
| 為替差損益 (△は益) | 96 | △20 |
| 持分法による投資損益 (△は益) | △41 | △43 |
| 保険返戻金 | △144 | — |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △713 | 3,887 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | △7,234 | △4,525 |
| 未収消費税等の増減額 (△は増加) | 15 | 503 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | △1,240 | △1,434 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | △3,605 | △934 |
| その他の資産の増減額 (△は増加) | △1,052 | 404 |
| その他の負債の増減額 (△は減少) | 144 | 1,006 |
| 小計 | 14,284 | 26,384 |
| 利息及び配当金の受取額 | 284 | 215 |
| 利息の支払額 | △1 | △88 |
| 保険金の受取額 | 144 | — |
| 法人税等の還付額 | 191 | 6 |
| 法人税等の支払額 | △8,024 | △6,357 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 6,878 | 20,160 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 固定資産の取得による支出 | △15,222 | △15,258 |
| 固定資産の売却による収入 | 43 | 241 |
| 定期預金の預入による支出 | △27,123 | △1,058 |
| 定期預金の払戻による収入 | 29,733 | 9,795 |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | △1,022 | △678 |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 335 | 118 |
| その他 | 62 | 105 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △13,194 | △6,735 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 株式の発行による収入 | 33 | 81 |
| 配当金の支払額 | △6,032 | △5,247 |
| リース債務の返済による支出 | — | △359 |
| その他 | △0 | 0 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △5,999 | △5,524 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △438 | △769 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △12,753 | 7,130 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 51,713 | 41,753 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | ※ 38,959 | ※ 48,884 |

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結会計期間において、MISUMI TREASURY SINGAPORE PTE. LTD.、米思米(上海)投資有限公司、駿河精機(佛山)有限公司を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。なお、MISUMI TREASURY SINGAPORE PTE. LTD. は当社の特定子会社に該当しております。

(会計方針の変更等)

一部の在外連結子会社において、第1四半期連結会計期間の期首よりIFRS第16号「リース」を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースについて資産及び負債として認識することといたしました。本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、当該会計基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。

その結果、当該会計基準の適用に伴い、有形固定資産の「その他(純額)」が50億2千4百万円、流動負債の「その他」が15億7千2百万円、固定負債の「その他」が35億8百万円増加しております。

なお、当会計基準の適用が当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 現金及び預金 | 50,097百万円 | 49,085百万円 |
| 預入期間が3か月を超える定期預金 | △11,137百万円 | △201百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 38,959百万円 | 48,884百万円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2018年6月14日 定時株主総会 | 普通株式 | 3,139 | 11.08 | 2018年3月31日 | 2018年6月20日 | 利益剰余金 |
| 2018年10月26日 取締役会 | 普通株式 | 2,893 | 10.21 | 2018年9月30日 | 2018年12月4日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2019年6月13日 定時株主総会 | 普通株式 | 3,117 | 10.99 | 2019年3月31日 | 2019年6月19日 | 利益剰余金 |
| 2019年10月28日 取締役会 | 普通株式 | 2,130 | 7.51 | 2019年9月30日 | 2019年12月3日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------|---------|------------|------------|---------|------|-----------------------|
| | F A事業 | 金型部品 事業 | VONA 事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 82,319 | 57,758 | 109,642 | 249,719 | — | 249,719 |
| セグメント間の内部売上高 | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 82,319 | 57,758 | 109,642 | 249,719 | — | 249,719 |
| セグメント利益 | 13,800 | 4,706 | 4,577 | 23,083 | △389 | 22,694 |
| のれん等償却前セグメント利益※ | 13,800 | 5,168 | 4,577 | 23,545 | △389 | 23,156 |

※(参考情報)

Dayton Lamina Corporation買取にかかるその他無形固定資産の償却前営業利益

2. 報告セグメントの合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|--------|
| 報告セグメント計 | 23,083 |
| 調整額 | △389 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 22,694 |

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------|---------|------------|------------|---------|-----|-----------------------|
| | F A事業 | 金型部品 事業 | VONA 事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 74,560 | 55,408 | 105,818 | 235,786 | — | 235,786 |
| セグメント間の内部売上高 | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 74,560 | 55,408 | 105,818 | 235,786 | — | 235,786 |
| セグメント利益 | 9,533 | 4,039 | 4,537 | 18,109 | — | 18,109 |
| のれん等償却前セグメント利益※ | 9,533 | 4,494 | 4,537 | 18,564 | — | 18,564 |

※(参考情報)

Dayton Lamina Corporation買取にかかるその他無形固定資産の償却前営業利益

2. 報告セグメントの合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

(補足情報)

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

地域に関する情報

(1)売上高

(単位：百万円)

| 日本 | 中国 | アジア | アメリカ | ヨーロッパ | その他 | 計 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|---------|
| 130,939 | 44,718 | 36,670 | 20,442 | 12,773 | 4,174 | 249,719 |

(注)売上高は当社グループの本邦と本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(2)有形固定資産

(単位：百万円)

| 日本 | 中国 | ベトナム | アメリカ | その他 | 計 |
|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 14,113 | 7,756 | 8,210 | 2,980 | 3,015 | 36,076 |

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

地域に関する情報

(1)売上高

(単位：百万円)

| 日本 | 中国 | アジア | アメリカ | ヨーロッパ | その他 | 計 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|---------|
| 125,329 | 39,620 | 33,689 | 20,954 | 11,977 | 4,215 | 235,786 |

(注)売上高は当社グループの本邦と本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(2)有形固定資産

(単位：百万円)

| 日本 | 中国 | ベトナム | アメリカ | その他 | 計 |
|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 17,024 | 8,194 | 8,052 | 4,129 | 8,903 | 46,304 |

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日) |
|---|--|--|
| (1) 1株当たり四半期純利益 | 57.23円 | 45.54円 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円) | 16,216 | 12,919 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | — | — |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円) | 16,216 | 12,919 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 283,383 | 283,658 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 | 57.02円 | 45.40円 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円) | — | — |
| 普通株式増加数(千株) | 1,032 | 926 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要 | — | — |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第58期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）剰余金の配当（中間配当）については、2019年10月28日開催の取締役会において、2019年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり剰余金の配当（中間配当）を行うことを決議いたしました。

| | |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 2,130百万円 |
| ② 1株当たりの金額 | 7.51円 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2019年12月3日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月3日

株式会社 ミスミグループ本社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 早 稲 田 宏 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉 原 伸 太 朗 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ミスミグループ本社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ミスミグループ本社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

| | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 【提出書類】 | 確認書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の8第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 2020年2月5日 |
| 【会社名】 | 株式会社ミスミグループ本社 |
| 【英訳名】 | MISUMI Group Inc. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 大野 龍 隆 |
| 【最高財務責任者の役職氏名】 | 常務取締役 CFO 男 澤 一 郎 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都文京区後楽二丁目5番1号 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 大野龍隆及び当社常務取締役 C F O男澤一郎は、当社の第58期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

